

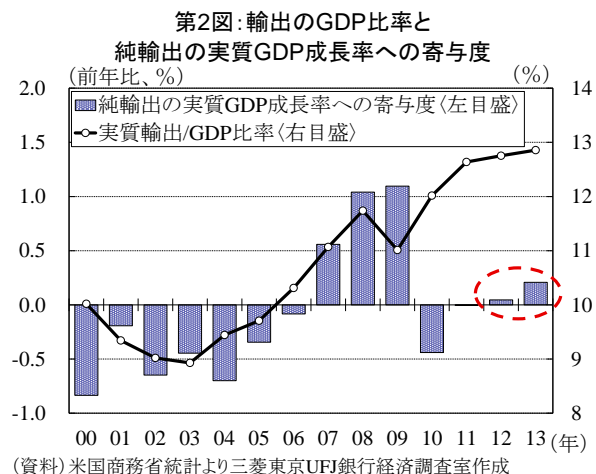
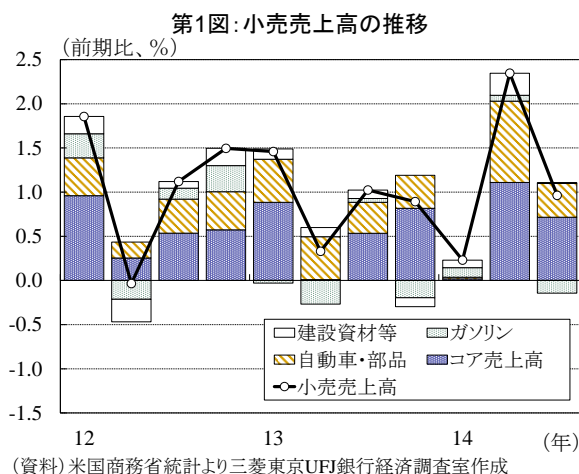
経済マンスリー [米国]

国内外の不透明感が強まるも、米国景気は緩やかな回復が継続

米国経済を取り巻く内外の環境は不透明感が強まっている。金融市場は、10月中旬にかけて、世界経済減速やエボラ出血熱の感染拡大への懸念の高まり等を背景に、大幅な株安と金利の急低下に見舞われた。市場は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、欧州や中国を中心に景気下振れへの警戒感が残存している。

米国の実体経済の動向に目を転じると、足元にかけても緩やかな回復が続いている。労働市場では、9月の非農業部門雇用者数が前月比+24.8万人と再び同+20万人台を回復（8月：同+18.0万人）、7-9月期平均では同+22.4万人の伸びを示した。もっとも、労働参加率や就業者率は底這い、賃金も伸び悩みが続くなど、労働市場の改善ペースは依然緩やかだ。個人消費についてみると、9月の小売売上高は同▲0.3%と年初以来の減少、7-9月期では前期比+1.0%と4-6月期（同+2.3%）から伸び率が縮小した（第1図）。四半期毎の内訳では、自動車・部品等の鈍化やガソリンの減少が全体を下押しした一方、これらを除くコア売上高は小幅の鈍化に止まった。7月以降、原油価格が下落傾向にあることや消費者マインド改善が持続していることを踏まえれば、個人消費はこの先も緩やかな回復基調を維持する公算が高い。

企業部門は堅調が続いている。9月の鉱工業生産は前月比+1.0%と、2012年11月以来の高い伸びを示した。設備稼働率も2008年6月の水準まで回復している。今後、設備投資や雇用が堅調を維持する公算は高いと考えられる。一方、企業の景況感、輸出受注等を中心に一部で頭打ちの動きがみられる。2010年以降、輸出のGDPに占める割合は上昇基調にあり、純輸出の実質GDP成長率への寄与度は小幅ながらプラスを示すなど、近年の成長を下支えしている（第2図）。景気減速が懸念される欧州向けの輸出は全体の2割弱（EU28カ国ベース）を占めており、今後、海外景気悪化やドル高進行が成長の抑制要因となる可能性には留意が必要だろう。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
坂東 輝昭 teruaki_bandou@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。